

友澤史紀先生お別れの会



2019年11月8日ご逝去

2020年2月4日（火）
TKP ガーデンシティ品川

友澤史紀先生お別れの会 式次第

- 一. 献 花
- 二. 開 会 兼松 学 (東京理科大学 教授)
- 三. 黙 禱
- 四. 挨拶 野口 貴文 (東京大学 教授)
- 五. 追悼の言葉 梶田 佳寛 (宇都宮大学 名誉教授)
- 六. 追悼の言葉 長瀧 重義 (東京工業大学 名誉教授)
- 七. 献 杯 上村 克郎 (元 建設省建築研究所 所長)
- 八. 遺族挨拶 友澤 明央
- 九. 閉 会 兼松 学 (前掲)





友澤史紀先生 経歴

- 1940年 横浜生まれ
- 1963年 東京大学工学部建築学科卒業
- 1965年 東京大学大学院数物系研究科修士課程修了
- 1968年 東京大学大学院工学系研究科博士課程退学
- 1968年 東京大学工学部助手
- 1970年 工学博士（東京大学）
- 1970年 建設省建築研究所研究員
- 1976年 建設省建築研究所無機材料研究室長
- 1978年 内閣資源調査会専門委員
- 1981年 建設省中央建築士審査会試験委員
- 1985年 日本建築学会賞（論文賞）
- 1986年 建設大臣表彰
- 1987年 東京大学工学部教授
- 1992年 文部省学術審議会専門委員
- 1995年 セメント協会論文賞
- 1996年 建設省中央建設工事紛争審査会特別委員
- 1997年 日本建築仕上学会会長
- 1997年 セメント協会論文賞
- 1998年 ISO/TC74 国内審議委委員会委員
- 1999年 セメント協会論文賞選考委員会副委員長
- 2000年 東京大学名誉教授
- 2000年 北海道大学大学院工学研究科教授
- 2000年 セメント・コンクリート編集委員会編集顧問
- 2000年 セメント協会論文賞
- 2001年 日本建築学会副会長
- 2001年 セメント協会論文賞選考委員会委員長
- 2003年 日本大学理工学部教授
- 2003年 日本建築仕上学会名誉会長
- 2003年 日本学術会議会員
- 2004年 セメント協会論文賞
- 2005年 日本コンクリート工学協会功労賞
- 2006年 日本大学生産工学部教授
- 2006年 日本コンクリート工学会会長
- 2007年 日本建築仕上学会特別功労賞



友澤史紀先生ご逝去 感謝と哀悼

令和元年 11 月 8 日、東京大学名誉教授で日本建築仕上学会名誉会員の友澤史紀先生が永眠されました。享年 79 歳でした。友澤先生は、建築材料学の分野において、先導的・包括的で示唆に富む数々の優れた研究業績を挙げられるとともに、多くの研究者・技術者の育成に献身され、数多くの著作を通じた啓発も行われました。特にコンクリート分野においては、昭和 40 年代に顕在化したコンクリートの品質問題およびコンクリート構造物の早期劣化問題の解決、ならびにコンクリートおよびコンクリート構造物の品質向上・高耐久化に向けて、長期にわたり調査・研究に精力的に取り組まれました。また、昭和 60 年代から平成初期にかけては、コンクリートの高性能化や完全リサイクル化など、常に時代を先導する研究を産官学の連携のもとに推進されました。これらの研究成果は、建築基準法施行令や告示の制定・改正はもとより、コンクリート関係の JIS の制定・改正、日本建築学会における標準仕様書の改定や関連指針の制定などに大きく寄与いたしました。研究の傍ら、科学技術庁、経済産業省、

国土交通省、厚生労働省などの審議会・委員会の委員、日本学術振興会、日本建築センターなど、多数の関連法人における委員長・理事などを務められ、建築行政の円滑化や技術普及などにご尽力されました。1997～2007 年に日本建築仕上学会・会長を、2001～2002 年に日本建築学会・副会長を、2006～2008 年に日本コンクリート工学会・会長を務められ、建築材料学の研究・教育をリードされました。また、ACI（米国コンクリート学会）、CIB（建築研究国際協議会）、RILEM（国際建設材料構造研究機関・専門家連合）、fib（国際コンクリート連合）、ISO（国際標準化機構）などの活動にも参画され、日本の建築研究・建築技術の国際的な展開にも貢献されました。

最期まで建築材料分野の研究者・教育者・技術者を先導・激励し続けられた友澤先生の愛情溢れるお姿と有り難いお言葉は、決して忘れることができません。心より感謝申し上げます。誠にありがとうございました。いつまでも天国より我々を暖かくお見守りいただきたく存じます。

野口貴文（東京大学教授）